

令和7年度 京都府立木津高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営計画)
<p>【中期経営目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な生徒一人一人を大切に、誰一人取り残すことなく、能力を最大限に伸ばし、進路を決めて卒業させる。 ○ 伝統校としての歴史を継承しながらも地域の状況や社会の変化を踏まえた教育活動を展開し、地域から愛され生徒一人一人が輝ける学校を目指す。 <ol style="list-style-type: none"> 1 地域との連携を深め、学習活動を公開するなど、地域から信頼される学校づくりを推進する。 2 あらゆる教育活動ととして、規範意識とコミュニケーション能力の向上を図り、自ら主体的に考え、正しい選択ができる生徒を育てる。 3 自尊感情、自己有用感を高めるとともに、他者を思いやる心を育てる。また、安心・安全で充実した教育環境を整備する。 4 自己理解を深めさせるとともに、目的意識を高めさせ、自らの進路を主体的に切り拓く能力や、責任ある行動力を身につけさせる。 5 学習環境の整備や教職員の資質向上に努める。 6 新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と評価の充実と、特色ある教育活動を展開する。 7 ICT活用をさらに促進し、「個別最適な学び」「協働的な学び」が可能な学習環境の構築を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 普通科のエリア制導入から3年目となった令和6年度は、探究活動の特色をより鮮明にした教育活動を展開することができた。各コースの特色を活かした地域連携や校種間連携を積極的に推進し、木津高校として初めての実践を行うなど、今後の「魅力ある学校づくり」に向けた取組の礎を構築することができた。 2 システム園芸科、情報企画科も、地域での販売実習や中学校でのビジネスマナー講座等、専門学科の特色を活かした取組ととして地域連携・校種間連携を推進した。また、農業系の大学・大学校への進学、商業系専門高校推薦による大学進学など、3年間の専門学科での学びが進路決定につながった生徒が比較的多く見られた。 3 学校全体としての進路状況は、系統的できめ細やかな進路指導の成果が感じられるものであった。大学進学者の割合は継続的に上昇しており、特に設置から3年目を迎えた普通科特進エリアでは、大学入学共通テストを経て国公立大学を目指す生徒が複数名おり、内1名が見事合格を果たした。さらに、学校紹介での就職は、早い段階で内定率100%を達成した他、卒業時に進路が未決定の生徒は、ここ数年間、非常に少なくなっている。 4 生徒指導上の課題を有する生徒や、特別な教育的支援を要する生徒など、一人一人の状況に応じて丁寧に時間をかけて対応し、生徒が安心して過ごせる教育環境の維持に努め、成果が上がった。 5 部活動加入率は、60.6%で、運動部、文化部とも活動が活性化している。また、部活動部員が各学校行事における運営補助や準備・撤収に積極的に携わっており、学校全体に好影響を及ぼしている。 6 木津高校創立125周年を見据えたプロジェクト会議で、学校の課題及び改善の方向性について議論するとともに、新しいスローガンを策定した。 7 新学習指導要領への対応、観点別学習状況の評価の実施については、導入から3年目を迎え、一定の定着が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スクールミッション及びスクールポリシーに基づき、以下の取組を重点として推進する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 創立124年、木津高校の歴史と伝統、建学の精神を継承しつつ、新スローガン『木津高で(ここで)未来を切り拓く』のもと、3つの学科において、「主体的に学び考える力」・「多様な人とつながる力」・「新たな価値を生み出す力」の育成と充実を図る。 2 各学科の特長及び専門性を活かした探究活動や学習活動の実践、及び地域・校種間の連携をととして「魅力ある学校づくり」を推進する。 3 個に応じたきめ細やかな指導ととして、確かな学力や専門的な知識・技能を身に付けさせ、自らの進路を切り拓く人材を育成する。また、原留・中退を限りなく0に近づけるため、ICT機器の活用等をととして、「個別最適な学び」・「協働的な学び」の構築を図るなど、さらなる指導の充実を図る。 4 規律ある学校生活と基本的な生活習慣の確立を図る指導を行うとともに、特別な教育的支援を要する生徒に対して、組織的に適切な支援を行う。また、教育活動にユニバーサルデザインの考え方を導入し、生徒が安心して過ごせる教育環境の整備を推進する。 5 多様性や人権を尊重する意識を持ち、信頼で結ばれ成長し合う人間関係が構築できる学級経営や学校づくりを行う。 6 地域等と連携した教育活動やボランティア活動を積極的にを行い、自己有用感と誇りを高める。 7 危機管理の徹底及び安心・安全な環境づくりを推進する。また、生徒が自他の生命を大切に、健康で安全な学校生活を送ることができるよう、健康安全教育および環境美化教育の充実を図り、施設設備のさらなる整備に努める。 8 学校・家庭・地域がコミュニティとして、それぞれの強みを活かしてつながる教育を推進する。 9 選ばれる学校づくりのために、広報活動をさらに充実させ、地域・中学生及びその保護者に向け、木津高校の魅力を発信する取組を組織的に推進する。 10 不断の授業改善に努めるとともに、教職員のスキルアップのため、研修の充実を図る。

令和7年度京都府立木津高等学校学校経営計画（実施段階） 評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分野	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
教務部	修学保障	原級留置・中途退学者数を限りなくゼロに近づけるよう全校体制で指導を行う。	校務システムにおける日々入力を安定的に運用し、欠席過多生徒の情報共有を担任と教科担当間でより緊密にする。また、欠席過多生徒・成績不振の生徒に対する指導について学年部のみではなく、各教科担当との連携を密にし、昨年度の数より減少を目指す。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・日々入力を安定的に運用し、生徒の欠席状況の把握を的確に行えるようにした。また、「K-Alert」を全学期中間考査後に配付し、生徒の成績・各教科の欠席時数を全教員に知らせ、不振の改善を図った。生徒の異動状況は昨年度がその前の3倍を超える状況であったが、今年度はさらに上回る結果となった。コロナ禍の状況で中学時代を過ごし、全日制課程のシステムに合わない生徒の入学が年々増えていることも一因ではないかと考えられる。今後は、関係分掌と連携し改善の方法を模索していきたい。 ・公開・研究授業週間及び授業アンケートを年2回実施することができた。公開・研究授業週間では、タブレット端末を活用した授業を積極的に公開し、お互いの授業内容の交流を図ることができた。また、授業アンケートは、各教科主任による分析を行い、授業改善につなげることができた。数科目実施できなかったのが、来年度への課題である。 ・観点別学習評価は、学期ごとの教科主任会議で評価の在り方を検討し、運用することができた。 ・図書委員会において、生徒主体の取組計画を作成できた。Classiを活用して「図書館だより」「新着図書案内」を発刊した。
			各学期の中間考査後、K-Alertを全教職員に配付することや、各学期末においても成績会議を開催することで、各生徒の成績状況の情報共有を図るとともに、成績不振生徒に対する丁寧な学習指導に力を入れる。	3			
			「授業を大切にしよう」を活用し、課題を抱える生徒への面談やアプローチの仕方について、より効果的な実施の仕方、時期を検討する。	3			
	学習指導	ICTを積極的に活用した授業を推進し、「個別最適な学び」「協同的な学び」の構築を推進する。また、授業規律を確保するとともに、授業改善を推進し生徒の学力向上を図る。	<p>これまでのICT活用のノウハウをよりいかに、Classiをはじめ学習アプリをより効果的に活用することにより、授業改善につながる取組（公開・研究授業週間、授業アンケート等）を効果的に実施し、授業改善を通じて学力向上につなげる。</p> <p>学力向上につながる取組を他分掌と連携して効果的に実施する。</p>	3	3		
	学校運営	新学習指導要領の趣旨を踏まえた「指導と評価の一体化」及び新教育課程の適切な実施を目指す。	昨年度完成年度を迎えた木津高校としての「指導と評価の一体化」をさらに推進し、生徒の学力についてより適切な評価を行い、通知票・指導要録に反映させる。また、完成した新教育課程の検証を行い、より効果的な教育課程を教科主任会議を通じて検討していきたい。	3	3		
図書館活動	図書館での活動を通して、生徒の学力・人間力の向上を目指し、社会で通用する能力を身につけさせる。	<p>生徒及び教職員に図書館の利用を促進する。</p> <p>図書委員会の活動に生徒たちを積極的、主体的に取り組ませる。Classiを活用するなど、有効な広報活動を行う。</p>	3	3			
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を目指す。	社会の一員としての自覚を育てるために、定められた時間に登校できるよう毎朝校門にて、あいさつ運動とともに遅刻防止指導を行う。週に1度程度、JR木津駅周辺を巡回し、登校・下校指導を行う。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導になる生徒が多くいたので、下校時の巡回ができなかったことは反省点である。校外から苦情の電話をいただくことが多かったため、次年度の検討事項であると考えられる。 ・身だしなみ指導についてはキャンペーンの実施が2回で止まってしまったので、次年度はまた違う形で実施したい。また、教員間で化粧について指導が統一されていない部分があるため身だしなみ指導については今後考えていく必要がある。 	
			登下校時を含め、学校生活全体を通じて、身だしなみが整った状態で過ごすことができるよう統一した指導を行う。また、身だしなみ指導を通して、生徒の内面にせまる指導を行う。	3			
			携帯電話やスマートフォン、タブレット端末のルールを教え、使用ルールを遵守するよう、統一した指導を行う。	3			
			保護者や地域、関係機関と連携し、安心・安全な学校生活の構築を図る。	<p>保護者や外部関係機関と連携を密にし、生徒の安心・安全に留意した指導を行う。</p> <p>いじめの未然防止・早期発見・早期解決といじめを許さない心の育成指導を行う。</p>	3		3

	特別活動	規律ある集団生活の中で、生き生きとした教育活動を推進する。	生徒会、クラス委員、部活動の校外での奉仕活動、人権学習等を通して、地域への連携を深めるとともに他者を思いやる心を育てる。	3	3		・生徒会や部活動など生徒が自ら選択し、活躍できる場をもう少し多く設けてあげられるよう次年度は行事などの取り組み方を検討する必要があると考える。		
			部活動に参加しやすい環境をつくり、自主性・協調性の向上を図り、達成感を得られるよう指導する。	3					
キャリア教育推進部	進路指導	希望進路実現のために就職指導、進学指導体制を充実させる。	就職希望者に対する指導については、学年・関係分掌との連携を密にし、希望者全員の内定を得る。	3	3	3	・就職指導は学年部と連携し丁寧な指導を行うことで、一次応募で100%の内定率を達成することができた。二次応募以降の就職希望者が続出し、対応に追われた。 ・特進エリアの指導については、各担任と連携を図り、生徒の状況を把握しながら指導を進めることができた。 ・進路シラバスを基に、各学年に応じた進路学習を実施することができた。実施時期や学習内容については、検討の余地がある。		
			特進エリアについては、担任を中心に各学年及び各教科と連携し、進路に対する目的意識を高めさせ「主体的に学び考える力」の育成を促すことにより、生徒のさらなる学力向上と進路実現を図る。	3					
			進路シラバス～守破離～を基に、系統的な進路学習を各学年と連携して実施するとともに、生徒が自ら進路開拓できるよう適切な情報提供を行う。	3					
	教育企画	本校の教育活動に興味・関心を持つ中学生に本校の魅力を伝え、特に木津川市、相楽エリアにおいて選ばれる学校を目指す。	各学科、分掌、部活動と連携して、学校説明会、学校公開、授業体験の実施により、組織的に広報活動を行う。また中学校訪問や中学生向けの進路ガイダンスを積極的に行う。	3	3			3	・学校説明会等の実施については、多くの関係分掌や教科、部活動等と連携して、実施できている。 ・ホームページおよびインスタグラムについては、学校説明会関係や学校行事について、適切に更新できている。今後は本校の教育活動の広報として、より効果的な活用方法を模索していく。 ・探究活動の推進と普通科の魅力化については、各教科担当者や連携しながら進めているが指導内容の体系化を図るため、教員間の連携を深めながら、改善につなげる必要がある。
			ホームページとインスタグラムを積極的に活用した情報発信を行う。またPTAと連携し、会報などを利用し本校の教育活動を保護者に向けて適正に発信する。	3					
			各教科担当と連携して校内の探究活動を推進し、普通科の特色化を進める。	3					
保健部	健康・安全	清掃活動の充実を図り、他を思いやる心を育む。	事務部と連携し、清掃道具の整備と充実に努める。清掃の仕方を明確にし、生徒が自ら主体的に清掃活動に取り組みやすい環境を整える。	2	2	2	・学校全体で美化意識や清掃習慣が十分に定着しておらず、クリーンキャンペーンや委員会活動を見直し、清掃活動の充実を図る必要がある。 ・安全点検後、必要な清掃道具の準備や危険箇所の修繕について事務部と連携し改善を図ることができた。 ・学校適応推進会議を定期的に開催し配慮を検討した。今年度は臨時開催が多く、学年担当者や担任との連携をより密にする必要がある。 ・支援が必要と思われる生徒は多いが、本人や担任からの情報収集が不十分で、支援体制を十分に機能させられなかった。次年度は、中学校からの引継ぎを十分に生かし、支援体制の強化を図りたい。		
		保健活動を通して、生徒の健康・安全を守るとともに将来に繋がる取組を行う。	各種健診を実施し、保健活動を充実させる。環境整備の点検を実施する。	3	3				
	支援を要する生徒が自己理解を深め、自ら主体的に進路を切り開く能力を育てる。	SCやSSWを交えて学校適応推進会議や特別支援校内会議を開催し、個別の指導計画を作成し、必要な支援や配慮を行う。	2	2					
		特別な支援を要する生徒に対して、自分に合ったスタディスキルやソーシャルスキルを見つけることで自立と進路を選択する能力を身につけさせる。	2						

農場部	農場経営	GAP（農業生産工程管理）を基礎においた農場運営を行う。GLOBALGAPの認証継続を目指す。	農場管理記録簿を全部門で記入し実習計画に応用する。	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・農業管理や生産物の在庫管理が整理でき明確になった。 ・圃場に存在するリスクについて気付いた。 ・他校種との学校連携を充実した。
			作業の安全を第一とし、そのための整理整頓を実施する。リスクを共有し対処できるようにする。	3			
		学科連携・地域連携・学校間連携をより充実させる。	他学科との連携に取り組みその内容を充実させるとともに広報活動を充実させていく。	3	4		
			大学・自治体をはじめ、他校種との学校連携を充実する。	4			
情報企画部	学科経営	「人間性豊かな職業人の育成」を理念とした諸活動を推進する。	生徒の能力を最大限に伸ばすために、学科・地域と連携した取り組みをさらに充実させ、情報企画科の特色と魅力をより明確にする。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ABCマーケットやパソコン教室をはじめ、学科、地域と連携した取り組みを実施できた。 ・Instagram等での発信を増やした。 ・京都府の代表として全国大会への出場を果たすことができた。 ・検定試験上位級へチャレンジする生徒が増え、合格者を輩出することができた。
			時間・あいさつ・身だしなみの規律を定着させ、「主体的に授業に向かう」ことを重点項目として全学年に周知し、教員・生徒が共に徹底して取り組む。	3			
		商業科の専門性を生かした進路実現を支援する。	専門性を生かした進路実現のため、担任と連携して個別に最適化した指導ができるよう協議する。	3	3		
		専門学科の魅力についてより広く認知されるよう、広報活動の充実を図る。	情報企画科の取り組みを積極的に発信し、地域住民や中学生に学科の魅力のアピールする。生徒が自ら企画運営する中学生へのマナー講習会や、イベントにおける活動、学科説明会などの機会を活かし、学科の取組や魅力を知ってもらおう。	3	3		
第一学年部	学校生活	授業規律を守り、授業を大切にする。教育環境を作り、健康で社会性豊かな集団を育成する。	規則やルールを守る等、規範意識の高揚を図る。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校でのルールやマナーなどについて年度当初から指導を継続したことで、規範意識して行動する生徒が増えてきたが、数名の生徒には定着していない。 ・各定期考査前に放課後学習会を実施し、基礎学力の定着に向けて、学習に取り組ませることができた。また、進路指導として、11月から『進路ガイダンス』を月1回ペースで開催し、進学を希望する生徒を中心に指導することができた。年度末には、現時点でのそれぞれの進路希望のまとめを行い、2年次の進路学習につなげた。 ・年度当初は身だしなみ指導が多発し、特別指導に至ること生徒もいたが、指導を継続して行ったことでルールを守る生徒が増え、指導件数が減った。 ・挨拶の大切さについて、学年集会で指導したことで、自然に挨拶が出来る生徒が増えた。また、式典や学年集会などで集合する際には、時間通り集まることができたが、普段の学校生活の中で、遅刻をする生徒がまだまだ多い。 ・校内で起こった事象・事案について保護者と密に連絡を取り、生徒の現状について共有するとともに、家庭での協力を得ることができた。
			授業を大切にすることで、学習環境を整え、基礎学力の定着を図る。	4			
			身だしなみや挨拶、時間を守るなど基本的な生活習慣の確立を図る。	3			
			保護者と連携し、生徒の成長を図る。	4			
		部活動および学校行事に積極的に参加する姿勢を養う。	部活動への参加を積極的に推進する。	2	3		
			文化祭や体育祭等の行事において、主体的計画のもと、協力して取り組ませる。	4			

							<ul style="list-style-type: none"> ・部活動を途中でやめてしまう生徒もいたが、継続して取り組んでいる生徒が多い。今後は、現在所属している部活動を卒業するまで継続するように指導をする必要がある。 ・文化祭・体育祭では、各クラスがそれぞれ協力し合い、成功を収めることができた。上手く出来たことや出来なかったことなどを今後のホームルーム活動や学校行事に活かせるようにしたい。
第二学年部	学校生活	規律ある学校生活と基本的な生活習慣を確立し、確かな学力の定着を図る。	規範意識の徹底を図る。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席や遅刻・早退について、保護者連絡や本人にも話をしたが、出席不足で単位不認定になる生徒が出てしまった。 ・各学期終了後に、成績や欠席の状況に応じて、三者面談や四者面談を実施した。学習環境について、落ち着いた雰囲気徹底することが難しかった。 ・希望進路の実現に向けて、これまでの進路学習や日頃の二者面談により、積極的に模試や検定に取り組む生徒の姿が見られた。 ・それぞれが輝けるように工夫しながら、生徒たちの自主性を尊重し、各行事について取組を進めた。
			授業を大切に環境づくりと放課後学習会等の実施で、学習習慣と基礎学力の定着を図る。				
		進路に対する意識を高め、自らの進路実現に向けての目標を定める。	日常的な進路指導や、担任・キャリア教育推進部や保護者との連携を図り、定期的に面談を実施し、自らの進路希望の実現と未来を切り開く力を育成する。	3	3		
		思いやりの心を育み、人権意識を高め、社会性豊かな集団の育成を図る。	人権学習や平和学習を通して、多様性を理解し、互いの人権を尊重しながら、信頼で結ばれ成長し合う人間関係を作る。安心・安全な環境づくりと自他の生命を大切に、健康で安全な生活をおくることができるよう、健康安全教育および環境美化教育の充実を図る。	3	3		
			校外学習や研修旅行、体育祭や文化祭など、充実した学校行事の実現に向け、事前・事後学習を計画的に行い、集団のリーダー育成にも取り組む。	3			
第三学年部	学校生活	進路実現と社会性豊かな資質を身につけさせる。	生徒の希望進路実現にむけ、保護者やキャリア教育推進部との密接な連携のもと進路指導を進める。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・本人との面談を重ね、保護者とキャリア教育推進部と連携した結果、就職については、第1希望の就職先から全員内定をもらうことができた。進学についても、保護者やキャリア教育推進部と連携し、生徒達の希望の進路実現に向けて、急な進路変更への対応など、最後まで取り組んだ。 ・規範意識については、最後まで継続して伝え続けることができた。校外学習でのテーブルマナーや大人のマナー講座として、スーツの着こなしについて講師を招いて実施した。 ・学校行事では、多くの生徒の参加と、主体的に取り組むことを促し、文化祭や体育祭、卒業式答辞など、様々な生徒に活躍する場をあたえることができた。
			成年年齢の18歳引き下げに伴い、より一層社会の一員としての自覚を持たせるために、身だしなみを整え、相応しい言葉遣いなど礼節が養われるようにする。	3			
			学校行事や人権学習、清掃活動など日常の活動を通して、自他を大切にコミュニケーションの大切さを自覚させる。	3			

事務部	施設設備管理 予算管理	安全安心な環境作りと予算の効果的活用	施設担当者・技術担当者を中心に施設・設備の点検を実施し、危険箇所等には、早急に対応する。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・施設担当者、技術担当者を中心に危険箇所等は早急に対応することが出来た。 ・普通教室等、照明設備LED化改修工事を行い、光熱水費予算の削減に努めた。 ・TCR情報機器について更新することが出来た。 ・Classi を利用し事務部から生徒、保護者、教職員に迅速に情報を伝えることが出来た。 ・各種支援制度について、機会をとらえ、周知することが出来た。 	
			義務的経費の削減（節電、節約）に努め、教育環境の整備、魅力ある学校づくりのための予算を確保し、学校経営の重点目標達成に向け効果的に予算を活用する。	3				
	ICT 環境の整備	ICT 機器の整備・活用	教育活動その他学校運営に ICT 機器が活用できるよう必要な整備を行う。	3				3
			ICT 機器の事務部からの情報（お知らせ）に ICT 機器を活用し、情報が保護者に迅速に伝わるようにする。	3				
	就学支援	安心な高校生活と希望進路実現に向けた支援	在学中の生徒、保護者へ就（修）学を支援する施策を効果的に紹介する。	3				3

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
国語科	教科指導	学習規律、学習習慣を確立させる。	授業開始時に学習に向かう環境を整えさせるとともに、ICT教材の利用や授業形態を工夫し学習意欲を高める。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に授業に集中できる環境作りを行い、提出物を出す意識も定着してきている。その一方で、タブレットや教科書などを持ってこない生徒や全く提出物を出さない生徒もあり、引き続き丁寧な指導が必要である。 ・漢字や語彙学習といった基礎的な事項を踏まえた上で、目的に応じた指導を継続できている。 ・小教科内で教材の共有を行い、指導方法の工夫に生かしている。
			取り組むべき課題を明示し、期限を守り提出できるよう粘り強く指導する。	3		
		基礎的な知識の定着を図り、進路実現に向けた国語力の充実を目指す。	毎週の漢字テストや教材ごとの語句調べなどを通して語彙力を高める。	3	3	
			授業での「書く」「話す」といった言語活動や、進学補講を強化し、それぞれの希望進路に適した指導を計画的に行う。	3		
	教材の精選及び教材理解の深化、指導内容や方法の共有化を図る。	小教科担当者間で教材研究を行い、板書計画やプリント、ICT教材作成において担当者間の交流を図る。	3	3		
地歴公民科	教科指導	学習習慣の確立を促す。	教科書やタブレット、その他の教材・ノート類を揃えて授業に臨むよう指導を徹底する。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備ができていくということを毎回評価した。そのことで生徒の授業を受ける準備が整った。 ・小テスト、単元テストをタブレットなどで行い、知識の定着を図った。 ・レポートや発表を取り入れ、定期考査のみの評価ではなく、多様な評価材料を集めることが出来た。
			提出物の状況や授業中の取組状況を平常点として評価に加える。	3		
		効果的な学習方法を習得させ、基本的な知識を確実に定着させる。	定期的に小テストを実施したり適切な課題を与えたりする。	3	3	
			地歴公民科目の効果的な学習方法を指導し、学習内容理解の定着を行う。	3		
歴史的、社会的な事象に興味・関心を持たせ、自分の意見を持たせる。	レポート課題や発表活動を取り入れた指導を実施する。	3	3			
	ICT教材や視聴覚教材（新聞や写真）を効果的に利用し、生徒のタブレットを有効利用させる。	3				
数学科	教科指導	基礎学力の向上を図る。	授業中は、机上に教科書・ノート・問題集を置き、不要物を片付けさせ、身だしなみの点検指導を行うことで、気持ちを授業に向けさせる。重要事項をノートにまとめさせ、生徒が主体的に学習に取り組むように、問題演習の時間を確保する。	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・数学に対する苦手意識から取り組めない生徒が急増していると感じる。やりきらせる指導を徹底したい。 ・レポート課題を実施し、提出期限の重要性を理解させることで、提出物を出す意識を定着させた。ただ、解答を写すだけの生徒が複数いるなどの課題が残った。 ・全学年でICTを活用し、毎週途絶えることなく課題配信ができており家庭学習につなげられている。 ・知識・技能は振り返り、思考力・判断力・表現力はテストではかるなど、学習に取り組みやすい環境を構築できている。 ・特進エリアでは、補習の回数を増やし習熟度別に指導を行うことができた。
			学習習慣の確立と、進学に向けた指導を充実させる。	タブレットなどで課題を与え家庭学習習慣の確立を図る。	4	
			進路実現に向け、補習や補講を充実させる。	4		
					4	
理科	教科指導	授業を大切にする教育環境をつくり、基礎・基本を定着させる。	授業開始時に、机上の整理や身だしなみ点検を行うことで授業の準備をさせる。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadの使用の有無の明確な指示なども含め、授業を大切にする環境を整えることができた。 ・プリント・ノート提出、問題集およびiPadを活用した課題、小テスト、実験・実習の取組など、考査以外の評価を充実させた。
		理科教育の充実を図る。	提出物を十分に設定し、チェックする。それにより考査以外での評価を充実させる。新しくなった北校舎の設備を生かし、新しい実験を試したり、教員間			

			で共有する。また、予備実験の時間を短縮することでより多くの実験を実施できるようにする。	3	3		<ul style="list-style-type: none"> ・実験器具の購入も含め、実験がより多くできる環境を整備し、実習助手とも連携して積極的に実験に取り組むことができた。 ・ICT等で映像や画像等を有効に活用しわかりやすい授業を工夫することができた。
			ICT等の活用を模索して、学習面で取り残される生徒がないよう、教材の工夫を図る。	3	3		
保健体育科	教科指導	豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。	安全に留意しながら、体力の向上を目指すとともに運動の特性に応じた楽しさを感じさせる。	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時、ランニング 600m、馬跳び 10 回程度のトレーニング実施で体力向上を目指した。 ・ICT活用には使用可能範囲が限られており、できるかぎり使用しているが、さらに主体的で深い学びまでには届いていない。 ・新体力テストの結果を振り返り今後の運動習慣について考えさせることができた。 ・講座全体での指示、種目担当での指示を適宜に行い、安全に授業が行うことができた。
		健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。	新体力テストのフィードバックを行い、今後の運動習慣について自ら考え行動できるように指導する。	3	3		
		規律ある集団行動の実践と、協調性を持った生徒を育成する。	毎時間、講座全体集合を行い、健康や安全に留意して授業が行えるように努める。	3	3		
		探究コースでは、スポーツにおける課題解決に向け、実践力や企画力を育てる。	健康を科学的に学びながら、様々なスポーツを体験学習することで、生涯にわたりスポーツに親しむ資質を養う。	4	4		
芸術科	教科指導	基本的な学習習慣の確立	授業規律を明確にして指導し、授業態度に問題ある生徒に対して個別に注意を促す。特に理由のない遅刻・欠席や未提出・不参加・取組不足の生徒には強く指導する。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初のガイダンスにおいて授業の進め方や評価の観点を明確に生徒に説明して、授業規律を徹底させた。そして取り組みが不十分な生徒に対して個別指導している。また遅刻早退や欠席に対しても同様に指導した。
			課題や作品の提出や発表の期限及び各種届の提出を厳守させる。	3			
		学習活動の充実	意欲的に実習に取り組み生涯において芸術が愛好できるように教材を精選し、興味関心をより強く持たせることにより学習活動を充実させる。	3	3		
英語科	教科指導	様々な学習活動を通して生徒の英語学習へのモチベーションを高め、積極的な発話につなげる。	普通の授業での教授法や活動を工夫し、積極的に英語でコミュニケーションをとろうとする態度を育成する。また、検定試験の受験、スピーチコンテストへの参加等、様々な取り組みを通して、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・例年通り、実用英語検定試験、全商英語検定試験合格に向け対策を行った。また、全商スピーチコンテストには 1 年 2 人、2 年 3 人が出場し、レシテーションの部で 3 位入賞した。いずれも学習成果を具体化する指導ができた。 ・授業における小テスト、週末や長期休業中の課題に取り組ませることで、語彙力強化と文法
		多様な進路に対応できる語彙力と文法知識の定着と向上を図る。	定期的な課題や、授業内での単語テスト等を行うことで語彙力と文法知識の定着を図る。また、計画的で効果的な補習を実施し、基礎学力の向上を図るとともに、発展的な学力の素地を養う。	3	3		

			さらに、大学入学共通テストや様々な形態の入試を視野に入れ、特進エリア1年生と2年生にGTEC受験を必須にするなど、時代に合った英語指導体制を模索する。	3	3	知識の定着に努めさせる指導を行った。 ・GTECについては、2年特進クラスは12月、1年特進クラスは10月に実施し、英語学習意欲の向上に貢献できた。
家庭科	教科指導	学習規律を確保し、学習習慣を定着させる。	始業時に学習に向かう姿勢を整えさせる。特に実習では安全に取り組めるよう規律を守るよう指導する。	3	3	3 ・1学期に集中して調理実習を行った。安全に取り組む意識を徹底できた。 ・ワークシートを毎回提出させ、点検を行った。不備があれば、再度提出できる機会を設け、多くの生徒で改善が見られた。 ・教科書で学んだことを自分自身の生活に生かすことができるよう課題設定を工夫した。
		自分の生活を見つめ、改善すべき点を把握させる。	授業毎にワークシートやレポートを提出させ点検を行う。評価をつけて返却することで改善点を明確にする。	3	3	
		将来に生かせる知識、技術を習得させる。	各領域において、問題意識を持たせながら授業を展開し、知識・技能を生かせる場面を提示する。	3	3	
情報科	教科指導	授業規律を確保する。	机上に不必要なものを片付けさせ、気持ちを授業に向かわせる。	2	2	3 ・提出物について、期限内に出せる生徒が少なかった。引き続きこちらから声をかけていくことで改善を行っていききたい。 ・PC機器、CP室の扱いについてはとても良くなってきているので、今後も継続したい。
			提出物の期限内提出の指導を行う。	2		
		授業の規律とルールを重んじ、情報社会におけるモラルと関連づけて指導を行う。	実習時、上履きの整理整頓の点検を行う。 「授業を大切にしよう」の声かけを行うとともに、PC機器の適切な取扱について指導する。	4 3	3	
農業科	教科指導	地域・大学等と連携した取組を行い応用力の向上を図る。	地元と連携し地域環境の整備と保全活動に取り組む。	3	4	4 ・大学の教員による体験授業を実施した。 ・地域の環境整備と保存活動に取り組んだ。 ・他校種との連携を充実した。 ・複数の資格取得を目指す生徒が増加した。
			大学や専門機関と連携をした学習を展開する。	4		
		資格取得の取組を活かし学力向上を図る。	農業技術検定、危険物取扱者資格、情報処理検定を複数取得させ生徒に専門力をつけさせる。	4	4	
商業科	教科指導	授業規律を重んじ、主体的な学習姿勢を身につける。	授業規律、主体的な学びの姿勢を定着させるため、各授業において主体的に学習に取り組む態度について習慣化させる。	3	3	3 ・授業の始めと終わりの挨拶や身だしなみについての指導を継続しており、生徒がしっかりと取り組んでいる。 ・検定試験前に補習を実施し、合格に向けての学習を深めることができた。 ・外部団体が主催する販売実習等の企画への参加を積極的におこなった。 ・出前授業や校外実習などでは授業での学習（準備）を活かすことができた。
		商業科の専門性を生かした進路実現のため、資格取得の実績や研究活動の成果をしっかりと自覚する。	生徒が資格取得の実績を残せるよう、授業や補習によって十分にバックアップする。研究活動の成果について生徒自身が自覚できるよう、研究ノートの蓄積と発表会に向けた指導を工夫する。	3	3	

<p>学校関係者評価委員会による評価</p>	<p>① 卒業式は落ち着いた雰囲気、とても良い式であった。3年生が立派に卒業していき、指導にあられた先生方の熱い気持ちが伝わってきた。京都府が重んじる「包み込まれている感覚」は、3年間を過ごしてこそ感じるものであろう。</p> <p>② 多様な生徒を成長に導き、きめ細かな指導を積み重ねている。特に社会的なマナーの指導をしっかりと行っている。今後も学力向上の面を含めて、日々の教育活動を継続してほしい。</p> <p>③ 国全体で少子化が進み、私学無償化の政策による影響もあり、学校を取り巻く環境の変化は大きい。しかし、逆にいえばきめ細かく、手厚い教育活動を続けることで、地域からの注目も高まり、もっと素晴らしい学校に成長すると思う。</p>
------------------------	---

<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>① 学校経営方針（中期経営目標）を達成するために、教育振興プランや短期経営計画に則ったかたちで、個々の教職員が自己の果たすべき役割を自覚し、研鑽を積む。</p> <p>② 分掌部長を中心とした組織体制を強化するとともに、分掌相互の連携を深めることで、全教職員が共通認識をもちながら学校運営に参画する体制を目指す。</p> <p>④ 他校との連携を含め、探究活動の成果があらわれている。また、国公立大学への合格者を続けて輩出するなど、普通科特進エリアの成果もあった。この流れを大切にしながら、進路指導の充実を図りたい。</p> <p>⑤ 保護者や地域等との連携をさらに強化し、スクールミッション、スクールポリシーに基づいた教育を目指すことにより、地域から愛される学校を目指す。また、創立125周年を迎え、広報活動の強化と学校の活性化を図る。</p>
----------------------	--